

## コーパスを利用した基礎文法指導とその評価

中條清美\*, 内堀朝子\*\*, 西垣知佳子\*\*\*, 宮崎海理\*\*\*\*

## Corpus-based Basic Grammar Teaching and its Evaluation

*Kiyomi CHUJO\**, *Asako UCHIBORI\*\**, *Chikako NISHIGAKI\*\*\** and *Kairi MIYAZAKI\*\*\*\**

In this study, we presented our findings for using lexico-grammatical data-driven learning (DDL) lessons with a Japanese-English parallel corpus from an on-going research project. An evaluation of three-year learning outcomes showed this program was useful for learning grammar basics such as parts of speech, inflections and derivations, and most importantly, it was effective in understanding the basic patterns of noun and verb phrases. The use of a bilingual concordancing program provided clear and numerous examples, which allowed students to inductively understand both vocabulary usage and grammar patterns. Most students indicated they liked this course and believed it was useful for vocabulary and grammar learning. We can conclude that this type of DDL program can be a successful learning tool for beginner-level EFL students.

Keywords: Data-driven Learning, Grammar Teaching, Grammar Basics, Parallel Corpus, Discovery Learning

## 1. はじめに

日本大学生産工学部では2004年度より、一般英語授業において初級者 (TOEIC 300点レベル) を対象に、コーパスを活用したデータ駆動型の発見学習 (Data-driven learning: DDL) を実施し、効果のあがるDDL指導法を模索してきた。授業で利用しているコーパスは、情報通信研究機構より公開されている読売新聞の日本語文と *Daily Yomiuri* の英語文を対応付けた日英パラレルコーパスであり (内山・井佐原, 2003)<sup>1)</sup>、検索ツールには二言語コンコダンスプログラムの ParaConc (Barlow,

2004)<sup>2)</sup> を使用している。

DDL授業は2004年度にはコーパスを「語彙指導に使う」(5週の実践)<sup>3)</sup>、2005年度には「文法指導に使う」(10週の実践) という期間集中型の実践を行った<sup>4)</sup>。そして2006年度には「1年を通して語彙・文法指導に使う」(20週の実践) という大学における通年利用の可能性を確認した<sup>5)</sup>。こうして実用段階に入ったDDL授業は、2007年度からは第二言語習得の認知プロセスを活性化するための語彙・文法指導に取り組み、DDLに適したタスクや、CALL環境におけるDDLの位置付け等の指導に関するノウハウを蓄積し、成果を公開している<sup>6)7)</sup>。

本稿では、2008年度に本学部で実施したDDL指導実

\* 日本大学生産工学部教養・基礎科学系准教授

\*\* 日本大学生産工学部教養・基礎科学系専任講師

\*\*\* 千葉大学教育学部准教授

\*\*\*\* 日本大学大学院生産工学研究科博士前期課程数理工学専攻1年

践の具体的な方法とその指導効果および学習者評価を報告する。指導効果については、2006年度および2007年度と比較しながら報告する。

以下では、第2節において、英語初級者を対象にしたDDL利用語彙・文法シラバスの概要、第3節ではシラバスに沿って作成した教材、第4節ではその指導実践について述べる。第5節では実践の結果報告とその考察を行う。第6節では今後の課題について述べる。なお、日英パラレルコーパスの概要、検索プログラムの使用方法については中條他(2006)<sup>8)</sup>に詳述されているので本稿では割愛した。

## 2. コーパスに基づいたシラバスデザイン

### 2.1 シラバスデザインに関する知見

DDL授業用のシラバスを構築する際には、次の3件の先行研究の知見を参考にした。まず Kennedy and Miceli (2008) は<sup>9)</sup>、コーパスを用いてある単語が持つ構造パターンのルールを発見する pattern defining 活動は、前置詞の選択、動詞の構造パターンや副詞の位置などの学習に有効であると指摘した。次に、中條他(2006, 2007) は<sup>10),11)</sup>、DDLは文構造の理解の基礎となる品詞の区別、屈折や派生などの学習に効果があったことを報告した。また、Moran and Diniz (2005)<sup>12)</sup>はDDLの発見学習によって引き出された気づきをおして仮説形成がなされた後には follow-up 活動が必要であると指摘した。初めの2つの知見は英語初級学習者用の文法基礎力を育成するためのシラバスをデザインする際に参考とした。また3件目の先行研究はDDL指導法の枠組みを構築する際に参考にした。

### 2.2 文法項目と語彙項目の選定に関する基礎研究

シラバスデザインはニーズ分析から始まる。4月に学習者の英語学習の「必要性と要望」を調査し、その結果を考慮して、大学1年生の一般英語の指導目標を「コミュニケーション能力の向上に資する TOEIC スコア上昇のための指導」と位置付けた。

DDL授業のシラバスをデザインする際には文法項目と語彙項目の選定が必要となるが、選定は次に述べる2件の基礎研究の結果に基づいて行った。まず、文法項目の選定は、Table 1に示した Uchibori, et al. (2006)<sup>13)</sup>の研究結果を参考にした。すなわち、TOEICのような実用コミュニケーション能力を問うテストでは、「名詞句」、「動詞句」、また、それらの内部構造としての「句構造」に関する出題比率が高く、しかも高校までの英語教科書では、こうした TOEIC 頻出の文法項目に関する明示的説明はほとんどない。したがって、学習者の文法知識を実用レベルに引き上げるには、実用英語テストに頻出するこのような言語形式の指導が必要になる。

**Table 1** Grammatical Structure Frequently Found on TOEIC

Rank	Grammatical Features and Structures	Ratio (%)
1	Structure of NP	24.4
2	Structure of VP	13.0
3	Subject-Predicate Relation	10.5
4	Adverb	6.5
5	Conjunction	5.9
6	Preposition	5.4
7	Structure of PP	5.3
8	Passive Voice	3.9
9	Five Sentence Patterns	3.9
10	Others	21.2

指導語彙の選定については、TOEIC公開問題の出現語彙を分析し、高校教科書の出現語彙と比較して選定した TOEIC Vocabulary 1 & 2(中條, 2003)を使用した<sup>14)</sup>。これは、実用コミュニケーションに頻出し、高校までの教育で不足している語彙を学習するための語彙リストであり、1ユニットごとに20語ずつを10ユニット学習できる2組の語彙セットから構成されている。

### 2.3 文法シラバス

以上の先行研究の知見と基礎研究に基づいて、Table 2に示した2008年度授業用の前期、後期の初級学習者のための文法シラバスを作成した。DDLのシラバスデザインの形式はコーパス検索用の語彙項目が教材の中核である lexical syllabus になることが多い(Hunston, 2002; 投野, 2008; 中條他, 2006)<sup>15),16),17)</sup>。本稿でもTable 2に見られるように語彙項目を示して lexical syllabus の形式をとっているが、同時に、文法項目を語彙項目よりも優先しているため、本稿では「文法シラバス」と捉える。

前期は主に「語形変化」と「名詞句構造」、後期は「動詞句構造」の指導に重点を置いた。シラバス作成において注意したのは学習項目の指導順序である。例えば、これまでの指導経験から本実践の学習者では派生や屈折などの「語形変化」の習得が不十分であることが判明していることから、前期の前半は語形変化の学習に重点を置いた。語形変化のルールを習得することによって、名詞句・動詞句の主要部である名詞・動詞、さらに句の内部に頻出する形容詞・副詞の品詞の区別、名詞句・動詞句の内部構造の分析などに対して有益な手がかりが得られると考えたからである。

実際の授業においては、授業前半にDDLを用いて基礎的な文法項目を学習し、後半は前述の TOEIC

Table 2 2008 DDL Syllabus

前 期			後 期		
文法 1	語彙 1		文法 2	語彙 2	
1 週： 品詞の区別	ビジネス	access, assembly, commercial, competitive, decline, distribute, efficiency, exhibit, export, franchise, import, inventory, invoice, negotiation, organization, product, quality, regarding, safety, sponsor	1 週： 動詞句構造 [ 3 ]	ビジネス	company, corporate, corporation, cost, development, environment, expand, expansion, finance, firm, incorporate (INC), labor, law, major, manufacturer, profit, protect, protection, regional, trade
2 週： 派生と屈折	ビジネス	audit, contract, decrease, economic, equipment, facility, headquarters, industry, location, machinery, manufacture, operation, opportunity, package, provide, region, research, site, strategy, unit	2 週： 動詞句構造 [ 4 ]	人事	accept, advertisement (ad, ads), agreement, benefit, candidate, degree, department, detail, division, employee, employment, excellent, experience, promotion, range, recommend, remain, require, submit
3 週： 名詞の(不) 可算性	人事	applicant, apply, associate, boss, career, chief, colleague, employer, executive, management, manager, offer, personnel, promote, requirement, resume, retire, strike, technical, vice	3 週： 動詞句構造 [ 5 ]	人事	clerk, director, editor, engineer, force, individual, manage, official, operate, operator, president, publisher, reception, relation, representative, responsibility, responsible, service, staff, various
4 週： 名詞句構造 [ 1 ]	人事	accountant, architect, assistant, auditor, award, client, consultant, former, full-time, lawyer, overtime, professor, receptionist, secretarial, secretary, security, skilled, supervise, supervisor, technician	4 週： 動詞句構造 [ 6 ]	会議	activity, appropriate, attend, bid, claim, committee, complaint, consider, deal, decision, encourage, improvement, indicate, intend, meeting, organize, original, prepare, project, suggest
5 週： 動詞句構造 [ 1 ]	会議	approve, arrange, conference, confirm, convention, copy, demonstrate, discuss, document, measure, postpone, procedure, proposal, propose, regulation, request, revise, seminar, session, workshop	5 週： 動詞句構造 [ 7 ]	マーケティング	affect, analysis, analyze, approximately, availability, case, cause, demand, economy, estimate, factor, field, figure, forecast, inflation, marketing, predict, prefer, quarterly, review
6 週： 名詞句構造 [ 2 ]	旅行	accommodate, agency, agent, arrangement, arrival, baggage, check-out, delay, departure, extend, guide, luggage, pack, rental, reservation, single, terminal, transit, valid, visa	6 週： 動詞句構造 [ 8 ]	オフィス	according, announcement, application, area, code, complete, complex, emergency, enclose, express, extension, fax, file, form, forward, installation, maintenance, suit, supply, update
7 週： 名詞句構造 [ 3 ]	マネー	account, adjustment, capital, coverage, credit, currency, earnings, fund, insurance, invest, investor, loan, payroll, PIN (personal identification number), policy, reimbursement, salary, savings, statement, tax	7 週： 名詞句構造 [ 6 ]	マネー	additional, amount, bank, bill, budget, cash, charge, check, deposit, earn, expense, fee, financial, investment, million, outstanding, payment, rate, secure, stock
8 週： 名詞句構造 [ 4 ]	売買	assure, brochure, buyer, cancel, chain, customer, defective, discount, display, mail-order, merchandise, minimum, order, purchaser, refund, replacement, retailer, subscription, supplier, warranty	8 週： 名詞句構造 [ 7 ]	買物	brand, clothing, consumer, delivery, examine, expensive, feature, function, furniture, guarantee, handle, item, obtain, price, purchase, receipt, receive, regular, sale, shipment
9 週： 動詞句構造 [ 2 ]	時間	advance, ahead, annual, current, due, frequently, immediately, lately, monthly, present, previous, prior, promptly, quarter, rapidly, recently, temporary, upcoming, urgent, weekly	9 週： 形容詞	生活	alarm, apartment, appointment, contain, convenience, daily, electrical, estate, household, list, local, meal, medical, membership, nearby, personal, power, property, remove, theater
10 週： 名詞句構造 [ 5 ]	生活	appliance, beverage, cater, detergent, downtown, electricity, envelope, furnish, gas, identification, inspection, install, newsstand, register, registration, rent, replace, resident, suspend, vehicle	10 週： 動詞句構造 [ 9 ]	交通	airport, automobile, available, concern, construction, crowd, expect, fare, information, license, occur, officer, passenger, permit, repair, reserve, route, seat, traffic, transportation

Vocabulary 1 & 2 を学習するための Web 語彙教材を学習した。Web 語彙教材と学習方法の詳細については中條他 (2009)<sup>18)</sup>を参照されたい。

DDL はコーパスを利用して検索語を検索し、その結果を観察して発見学習を進める。そのため検索語の選定が必要である。検索語は Table 2 に示した語彙の中から選定されることから、本 DDL 教材は文法項目と語彙項目の学習が有機的に関連付けられていると言える。文法教材に語彙学習を含めるのは初級学習者では、TOEIC レベルの文法の用例を理解するには、語彙量を増やす必要があるからである (Pienemann, 1998 参照)<sup>19)</sup>。

#### 2.4 4ステップ DDL 指導法

これまで5年間、コーパスを一般英語授業で初級学習者対象に使用し、教育効果の上がる DDL 指導法の枠組みを模索してきた結果、Corder (1973)<sup>20)</sup>の“Pedagogic Grammars”の論文に述べられている“Teaching & learning activities in the classroom”の枠組みが我々の目指す指導法に良く適合すると考えた。

Fig. 1 には Corder (1973) の枠組みを引用した。まず、教師は指導する言語形式のデータや用例の教材を学習者に提供する (Provision of data and examples)。学習者は教材を利用して帰納的学習によって仮説形成を行う (Hypothesis formation by induction from data and examples)。その後教師は必要に応じて明示的説明を与えて仮説の確認、修正を行う (Explanation, description, correction, and verification)。次に、学習者は仮説検証の機会を与えられる (Hypothesis testing)。以上の学習活動の連鎖は Fig. 1 に示す矢印の向きに循環するというモデルである。

Fig. 1 の仮説検証 (Hypothesis testing) は Moran and Diniz (2005)<sup>21)</sup>の follow-up activities にあたる。Moran and Diniz の follow-up activities に含まれる「産出活動」を発展的に分離して Corder のモデルの最後のプロ

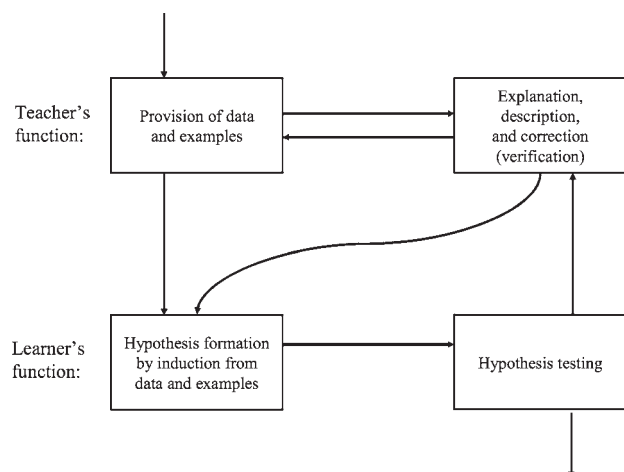


Fig. 1 Teaching and Learning Activities in the Classroom (Corder, 1973)

セスに付け加えると、我々がこれまで経験的に有効性を確認してきた4ステップ DDL 指導法、すなわち「①帰納的学習による仮説形成、②教師による明示的説明、③ follow-up 練習問題による仮説検証、④産出活動による統合促進」という指導プロセスと符合する<sup>22)</sup>。コーパスが実用的でなかった Corder の時代に比べると、現在はコーパスが容易に利用できるため、Fig. 1 の Hypothesis formation by induction from data and examples の段階に、コーパスを利用した DDL を採用することによって帰納的学習がより促進されると考えられる。

### 3. コーパスを利用した DDL 授業と教材

#### 3.1 授業の流れ

本学部で実施している DDL 授業では、Table 3 に示した授業の流れに沿って、90分授業の前半にコーパスを活用した DDL、後半に Web 語彙教材学習を行った。授業の「導入」は前週の20語の復習テストから始まり、前回の基礎文法学習項目の宿題の解答・解説を行う。

「展開1」は DDL であり、学習者は入念に準備された「仮説形成ワークシート」と呼ばれるハンドアウトに従ってコーパスを直接利用して「発見学習」を行う。仮説形成ワークシートは DDL タスクを通して目標言語形式に対する気づきを起こす教材である。

Table 3 Classroom Procedure

導入：語彙復習小テスト & 文法宿題解答・解説	25分	全体学習
展開1：コーパス利用学習 (DDL) ・仮説形成ワークシートを使用して DDL タスクを実施 ・7語の検索語 (学習語彙20語の一部) ・検索結果を記入	30分	ペア学習/個別学習
展開2：DDL 項目の明示的解説 ・結果報告 ・教師による句構造の明示的説明	5分	全体学習
展開3：Web 語彙力養成教材学習 ・学習語彙20語 (DDL の7語を含む) ・Web 語彙定着確認テスト	30分	個別学習
定着：Follow-Up Activities ・仮説検証プリントを使用したアウトプット練習		宿題



「展開2」では全体学習において仮説形成ワークシートのタスクの解答を行い、必要に応じて句構造の図式を用いて明示的に学習項目の解説を加え、DDLによって形成された仮説の確認・修正を行う。本実践で使用した句構造の図式は Uchibori, et al. (2006)<sup>23)</sup>で使用されたもので、図式を使った明示的文法指導による教育効果が報告されている。図式の詳細については上記文献を参照されたい。

「展開3」の語彙学習では、TOEIC Vocabulary 1 & 2を学習するためのWeb語彙教材を利用して20語の学習語とその用例40個を学習し、最後に確認テストで授業を終了する。

「定着」として、Follow-up活動のために「仮説検証プリント」と呼ばれる宿題プリントが次週までの宿題として配布される。仮説検証プリントは、引き起こされた気づきを検証して理解し、目標言語形式を使用してアウトプットを高める教材である。現在のところ、時間的に授業内に行うことが不可能なため「宿題」となっている。

### 3.2 仮説形成ワークシートの例

仮説形成ワークシートは学習者が自立的にDDLを進められるように複数のDDLタスクを記載したものである。Fig. 2, Fig. 3, Fig. 4には3つのタスクをコーパス検索結果と合わせて例示した。タスク1 (Fig. 2)とタスク2 (Fig. 3)は名詞句の構造に関するもの、タスク3 (Fig. 4)は動詞句の構造に関するものである。

タスク1 (Fig. 2)では、*opportunity*の検索結果を見ながら、冠詞*a*と形容詞*golden, good, great, new, unique*を( )の中の適切どころに書き込む。このタスクを遂行することによって、*opportunity*の前には、さまざま

な形容詞が来ること、さらにその前には冠詞が来るという、名詞句で頻度の高いパターン「冠詞+形容詞+名詞」を学習することができる。またコーパスによる学習の利点として、*opportunity*と共起するに形容詞は肯定的なニュアンスを表すものであるという知識が得られ、それに対応する日本語も「絶好の機会、良い機会、好機」などであることが理解できる。この用例ではさらに、*opportunity*の後ろに来る前置詞は、名詞に対する後置修飾語句を導く前置詞*of, in, on*等の中では出現率が少ない方(3~5%, Biber, et al. 1999: p.635)<sup>24)</sup>の*for*である、ということにも気づく機会があり、これにより「名詞+前置詞句」という名詞句構造の右側のパターンの一つを認識することができる。

タスク2 (Fig. 3)では、*the salaries*の検索をし、まず後ろに*of*が来ていることを確認する。そして検索結果を見ながらタスクの穴埋めをすることによって、名詞*salaries*の前には冠詞が来ること、後には前置詞が多く来ることを確認する。さらに追加タスクとして*the salaries of NP*の例を3つ書かせることもできる。例えば*the salaries of its employees, the salaries of postal employees*などである。さらに前置詞句は「前置詞+名詞句」という構造になっていることを発展的に指導することもできる。

タスク3 (Fig. 4)は、動詞句に関するものである。たとえば、*hope*の検索結果の実例を見ることによって、*hope*の後ろには*to*が多く現れているが*\*ing*は現れていないことがわかる。したがって*hope*は*to*不定詞をとって動名詞は取らないようだという仮説が立てられる。さらに、*hope \*ing*を検索すると、2例のみが出てきて、どちらも

### Sample Task 1

ion, saying "it will be a golden opportunity for people around the world  
 iste saga. This would be a golden opportunity for the SDPJ to play its pr  
 id Defense. This creates a golden opportunity for "unfashionably located"  
 i tapering off. It offers a good opportunity for Japan to reexamine its p  
 ito plural parties offers a good opportunity for the party to purge itsel  
 vote. the contest offers a good opportunity for us to think about who w  
 eform study will provide a good opportunity for a review of the police a  
 tid. The meetings provide a good opportunity for the government to listen  
 praised the festival as a great opportunity for Japan and Britain to dee  
 ense Rao's visit will be a great opportunity for Japanese and Indian leac  
 i at least has been given a new opportunity for self-government and democ  
 rian elections afforded a unique opportunity for radical Islam to enter

...各省で構成されている。絶好の機会である。だが防衛費...  
 ...問題を外の目で見直す良い機会だ。こうした状況は改めなけれ...  
 ...保守陣営が多党化したこの機会を、同党は、金権体質...  
 ...トの顔にふさわしいかを考える機会になる。また、三月一日...  
 ...二者が初めて警察組織を見直す機会になる。これらの結果から...  
 ...見も政策を世論にアピールする絶好の舞台となっている。自衛隊...  
 ...財で日本文化を紹介するこの機会を大切にしたい」とスピーチ...  
 ...率直な意見の交換をするよい機会である。30歳代から50...  
 ...自治と民主主義への新たな機会を与えられた。—日本の...  
 ...政治の本流に加わるユニークな好機を与えるものだった。残され

<a \* opportunity for>を検索しよう。名詞 *opportunity* の前に何が来ていますか。( )をうめよう。

	限定詞	形容詞	名詞	名詞の直後
1	( )	( )	<i>opportunity</i>	<i>for</i> people around the world
2	( )	( )	<i>opportunity</i>	<i>for</i> the SDPJ
3	( )	( )	<i>opportunity</i>	<i>for</i> Japan
4	( )	( )	<i>opportunity</i>	<i>for</i> the party
5	( )	( )	<i>opportunity</i>	<i>for</i> Japan
6	( )	( )	<i>opportunity</i>	<i>for</i> Japanese
7	( )	( )	<i>opportunity</i>	<i>for</i> self-government
8	( )	( )	<i>opportunity</i>	<i>for</i> radical Islam

Fig. 2 Sample Task 1

### Sample Task 2

n from a commercial bank to pay the salaries of its employees, Korocheyev said. The salaries of Japanese staff members working at the bank are covered by the budget program. Japan pays the salaries of Japanese employees at the U.S. Embassy in Tokyo, Shihara said. "Unless we reduce the salaries of metropolitan government employees, we will not be able to pay the salaries of postal employees," said a government official. Discussions on the salaries of public corporation executives, industry officials separately from the salaries of regular employees. At the time of the Soviet Union, under which even the salaries of researchers at the academy are covered by the government. In addition, the salaries of the governor, deputy governor and prefects are 93 percent of the salaries of the directors from Renault. The salaries of insurance premiums or part of the salaries of their employees to cover nursing homes. Companies deduct union dues from the salaries of union members, made the companies of Yamaguchi also paid the salaries of Yamaguchi's staff. The salaries of the staff.

このままでは、二月分の職員給料支払いのために、商業銀行から米軍基地内の日本人従業員への給与や基地内の光熱費を負担する負担範囲を超え、日本人従業員の給与や基地の光熱・水道費なども含めて、同知事は「まず都職員給与を削減しなければ、福祉予算の削減を要する。また、郵便局職員の賞金体系については、批判が強い。首相を超える日銀総裁の高額給与が明らになったことから近隣に天下りした同省の一年目の給与は、その会社の給与体系とは異なる。アカデミーの研究者への給与さえ半年遅れの支給という状況下で、総裁、副総裁、理事全員の給与もカットする。金融機関から出振の日産は九三年六月から役員給与カットが続いており、ルノー出

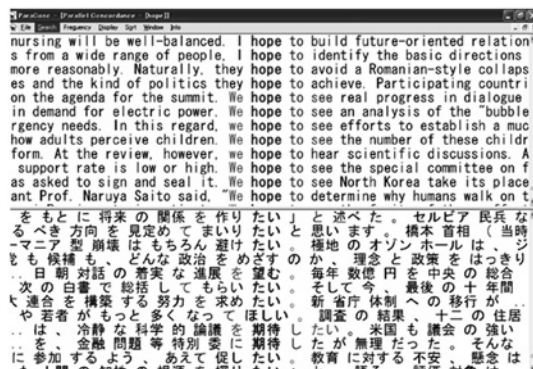
< the salaries >を探索しよう。後ろに何が来ていますか。( )をうめよう。

限定詞	名詞	名詞の直後
1 ( )	salaries	( ) its employees
2 ( )	salaries	( ) Japanese staff members
3 ( )	salaries	( ) Japanese employees
4 ( )	salaries	( ) metropolitan government employee
5 ( )	salaries	( ) postal employees
6 ( )	salaries	( ) public corporation executives
7 ( )	salaries	( ) regular employees

Fig. 3 Sample Task 2

### Sample Task 3

< hope >を探索しよう。



< hope \*ing > の検索結果を確認しよう。

reform will work as they hope, considering the changes in voter psychological behavior. With signs of hope appearing after two years of economic s

内にも「産業構造や有権者意識の変化を考えれば、思惑通りはその経済危機がようやく底を打ち、東南アジアは再生への新しい

Fig. 4 Sample Task 3

動詞 hope の補部としての \*ing ではないことから、hope は補部には動名詞をとらないことが確認できる。

#### 3.3 仮説検証プリントの例

学習者が理解した知識を仮説検証する機会を持つために、DDL で学習した項目を中心に、Table 4 に示したような仮説検証プリント（宿題プリント/Follow-up）を宿題として課した。4番目のステップであるプロダクション活動として英作文を含めた。課題は学習者の負担にならないよう、選択問題や部分英作文の出題形式をとり、30分程度で完了するものにした。

#### 4. 2008 年度指導実践

##### 4.1 実施環境

指導実践の詳細は以下のとおりである。

- 授業科目名：「コミュニケーション」週 1 回 90 分
- 学習者と指導内容：理工系の大学 1 年生、2 クラス、DDL グループは 22 名、リスニンググループは 25 名である。指導内容は、DDL グループは「DDL+Web 語彙」を指導した。リスニンググループは「リスニング+

Table 4 An Example Follow-Up Activities Sheet

(1) 正しい語を選びましょう。	
1. Thank you for your helpful [guidance, guidances]	[正解 guidance]
2. There has been a sharp [decline, declines, declining] in Chinese gyoza imports.	[正解 decline]
(2) 正しい文に直しましょう。	
1. We had great trip to Hawaii!	[正解 a great trip]
2. We are sorry for late reply.	[正解 the late reply]
(3) 名詞句に下線を引きましょう。	
1. It was a tough negotiation.	[正解 It, a tough negotiation]
2. Yodobashi has a big display of new merchandise.	[正解 Yodobashi, new merchandise, a big display of new merchandise]
(4) [ ]内を並べ替えて正しい英文にしましょう。	
1. Japan is [country, free, a, completely].	[正解 a completely free country]
2. I received [email, my, a, long, friend, from].	[正解 a long email from my friend]
(5) 文章を続けましょう。	
1. Are you going to attend...?	[例 the college campus festival]
2. We can't predict...	[例 the future/who will win the election]
3. I think...is expensive.	[例 I think the PSP is expensive.]
4. Today I received...	[例 a letter from the school]

Web 語彙]であり、DDL の部分にリスニング教材を使用した。英語レベルは TOEIC Bridge 練習テストの結果を参照すれば、DDL グループは 100 点満点で平均 76 点、リスニンググループは平均 54 点である。

- 指導期間と指導回数：2007 年 4 月～12 月、全 20 回(前期 10 回、後期 10 回) (プリテストとポストテストはこの指導期間に含まれない。)
- 学習者は週 1 回英会話の授業を受講している。その目標は語彙や文法力の言語能力面の強化に重きを置くよりは、英会話力や態度の育成に重点が置かれている。

#### 4.2 指導効果の検証

指導実践の効果の検証は、(1)文法基礎力テストと(2)学習者の評価と感想の 2 つの観点から行った。プリテストとポストテストには同一のテストを用いたが、テスト実施の予告を行わない、テスト実施直後に問題を回収する、正解に関する解説を一切行わない等の配慮をした。

##### 4.2.1 文法基礎力テスト

文法基礎力テストは基本的な項目に関する指導実践の効果を測定するために、①品詞の区分、②可算・不可算、③屈折、④派生、⑤名詞句、⑥動詞句の知識・理解を問う問題に加えて、⑦応用文法問題を含む合計 138 問のテストを出題した。出題した問題の形式と問題数は、①の品詞の区分は、英単語の品詞名を答える 20 問、②の可算・不可算は名詞の複数形を答える 20 問である。③の屈折は動詞の基本形を提示した一覧表に、過去形、過去分詞形、3 単現の -s 形、-ing 形を答える 11 問のテストで、2006 年度は 4 つの形式がすべて書けた場合のみを正解としたが、2007 年度以降は形式ごとに正解とした。④の派生は同じ語幹を持つ語について、動詞、名詞、形容詞、副詞を表す形の語形変化を示す一覧表に空欄を設け、当てはまる品詞の適切な形を問う 19 問のテストである。

⑤の名詞句は英文の中の名詞句に相当する部分に下線を引く 14 問のテストを作成した。⑥の動詞句は 8 種の動詞句関連項目について各 5～7 問の 3 肢選択または 4 肢選択の計 47 問のテストを作成した。⑦の応用文法問題とは TOEIC 形式の問題で、旧版の TOEIC の Part V に出題されていた 4 肢選択問題であり、公開されている練習問題に準じた問題を名詞句を中心に 7 問を出題した。

##### 4.2.2 学習者の評価と感想

12 月の最終授業時に、Web ブラウザを使用して授業に対する 47 項目の質問についての学習者の評価と感想を収集し、さらに質問紙を使用して DDL 教材に関する感想を収集した。

##### 4.2.3 英語力全般に関する指導効果検証の試み

本来は 1 年間の総合的な英語力全般の効果を客観テストを用いて測定することが望ましいと考えられるため、2006 年度から継続して英語力全般の効果測定を試みている。2006 年度は TOEIC Bridge 練習テストを 4 月のプリテストと 12 月のポストテストに使用し、得点上昇に有意差を得た。2007 年度は有料の TOEIC Bridge IP テストを使用したところ有意差を得ることはできなかった。使用したプリテストとポストテストの難易度の誤差が大きいに思われ、その誤差の範囲を越えるような効果を得るのは容易でないことが判明した。

2008 年度は比較的英語習熟度が高いと考えられた本授業実践の DDL グループについて 4 月に有料の TOEIC-IP を実施したところ、平均点は 378 点であった。しかしながら、本指導効果研究は、現実の授業環境において学習者の英語力を向上させることを目的とした指導の一環として行われているため、TOEIC-IP の受験に要する 2 時間を通常の授業時間内に設定することは適切でないように思われた。また、習熟度レベルから見て

TOEIC-IP の使用は適切でないと判断された。そのため、DDL グループに対して 12 月には TOEIC-IP のポストテストを行わず、リスニンググループと同一の TOEIC Bridge 練習テストを実施した。TOEIC Bridge 練習テストは 1 時間で終了するため受験者への負担が少ない。以上のような理由から 2008 年度の実践では外部テストを用いた評価は行われなかった。次年度はプリテスト、ポストテストとも TOEIC Bridge 練習テストを使用するか、あるいは、1 時間程度で実施できる他の客観テストを試用したいと考えている。

## 5. 結果と考察

本節では、2008 年度の指導実践のプリテスト、ポストテストの結果を報告する。さらに、2006 年度、2007 年度、2008 年度との結果との経年比較を行う。最後に、2008 年度の学習者から収集した評価と感想を観察することによって、DDL 授業実践の効果を検証し、今後のコーパス利用の英語指導への示唆を得る。

### 5.1 2008 年度文法基礎力テストに見る指導効果の検証

Table 5 には 2008 年度の文法基礎力テストの結果を示した。左列にはテストで扱われた項目①～⑦を示した。続く欄の左半分は DDL グループであり、右半分はリスニンググループの結果である。それぞれ学習開始時（4 月）に行ったプリテストの得点（100 点に換算）、1 年間の授業終了時（12 月）に行ったポストテストの得点（100 点に換算）、および、得点上昇（ポストテストとプリテストの得点の差）を示した。各項目のテストの得点上昇は、*t* 検定（対応ありの両側 *t* 検定）を行った結果、DDL グループの①、④、⑤、⑥、⑦とリスニンググループの①と④について 1% 両側検定で指導の前後の得点上昇量に有意差が認められた。

リスニンググループは文法指導を行っていないためほとんどの項目で得点上昇に有意差は認められなかった。したがってリスニンググループが①品詞の区別と④派生の 2 項目において有意な上昇を示しているのは、DDL グループと同一の Web 語彙教材を利用した語彙指導の効果と考えられる。上述の Table 3 に示した授業の流れにおける、「導入」と「展開 3」での語彙指導・語彙復習小テストの際に品詞の区別や派生について教師が口頭で毎時指導した効果が現れたものと考えられる。

続いて、①から⑦の DDL グループの個々の項目の結果について見ていく。

#### 5.1.1 品詞の区別

Table 5 の DDL グループの品詞の区別の得点は、100 点満点で 73 点から 92 点へと向上した。具体的には、clearly, very, always, promptly などの副詞、そして she, you などの代名詞の区別が改善された。注目すべきこととして、品詞の区別についてはリスニンググループにも有意な差が出ていることである。リスニンググループの上昇量は、授業の後半で指導した Web 語彙学習の指導効果によるものと考えられる。上昇量は DDL グループの方が大きいことから、DDL グループには DDL 指導と Web 語彙学習の両方の効果が現れていると考えられる。

#### 5.1.2 名詞の可算性・不可算性

名詞の可算性・不可算性については、指導した不可算名詞のうち、baggage, traffic, furniture の正解は 9 割を越えて向上が見られたが、equipment の正解は 30%にとどまった。また、複数形を指導しなかった可算名詞の family, shipment, meal, sale, price, knife の正解は 3 割から 6 割にとどまった。これらの問題に対しては、既習事項の発展として正解できるような応用力を養成するための指導を充実させる必要があると思われる。

Table 5 Comparisons of the Pre-and Post-test Scores on Grammatical Features

テスト項目	2008 DDL グループ (22 名)			参考 2008 リスニンググループ (25 名)		
	プリテスト (点)	ポストテスト (点)	得点上昇 (点)	プリテスト (点)	ポストテスト (点)	得点上昇 (点)
①品詞の区分	73	92	20**	37	51	14**
②可算・不可算	67	69	3	56	59	3
③屈折	71	76	5	40	46	6
④派生	49	62	13**	14	27	13**
⑤名詞句	54	71	17**	10	13	3
⑥動詞句	64	76	11**	42	49	7
⑦ TOEIC 形式の文法問題	49	66	17**	35	37	1

\*\*p < .01



### 5.1.3 屈折

屈折については、2008年度は指導の重点が名詞句、動詞句へと移行したため、produce, recommend等の規則的な屈折以外は指導を行わなかった。結果、Table 5に見られるように1年間の向上は見られなかった。ある程度の指導を行った屈折形については、occur, submit, supply等の-ed形や-ing形に少し不規則な変化の部分が含まれる屈折の正解率は低くとどまり、学習者の理解の脆弱さがうかがえる。

### 5.1.4 派生

派生形を作る接辞の知識は語彙力増強に有効であるため語彙指導の一部と考えられている。一方、未知語の意味を推測する場合や英文を産出する場合にも利用されるので、文法力の基礎の指導とも考えられる。結果、Table 5に見られるように、リスニンググループにも有意な上昇が確認された。派生形のうち、DDLでとりあげられたextendは30%から70%に向上した。しかしながら、nationalize, acceptance, specificationの正解率は10%にとどまった。

### 5.1.5 名詞句

名詞句については、英文中の名詞句に相当する部分に下線を引くテストを実施した。Table 5に見られるように、指導の前後の得点上昇量に有意な差があったことから、名詞句構造の指導は一定の成果をあげたと判断した。名詞句の指導効果については別稿で詳細に取り扱う予定である。

### 5.1.6 動詞句

8種類の動詞句関連項目、すなわち、①動名詞とto不定詞、②that節とwh節、③形容詞、④副詞、⑤過去形、⑥受動態、⑦完了形、⑧一致について、3肢または4肢選択のテストを実施した。Table 5に見られるようにプ

リテストの100点換算の平均は64点、ポストテストの平均は76点、得点上昇は11点であり、動詞句全般について指導の前後の得点上昇量に有意な差があった。

次に、動詞句については2007年度よりDDLに動詞句学習を含めている。指導効果の改善の程度を見るため、個々の項目ごとの指導効果を2007年と比較してTable 6に示した。Table 6の左列にはテストで扱われた8項目の動詞句関連項目を示し、続く欄の左半分は2008年度であり、右半分は2007年度の結果である。それぞれ学習開始時(9月)のプリテストの得点、後期の授業終了時(12月)に行ったポストテストの得点、および得点上昇を示した。得点は100点に換算した得点を示した。2008年度は2007年度の効果測定テストを改良したため関連項目に一部変更を加えた。Table 6の表は2008年度のテスト項目を中心に示したため2007年度のテスト項目に含まれなかった③⑦⑧は空欄となっている。

動詞句関連項目のうち、2008年度は①動名詞とto不定詞、②that節とwh節、③形容詞、④副詞は1%両側検定で指導の前後の得点上昇量には有意差が認められた。特に指導をしなかった⑤過去形、⑥受動態、⑦完了形、⑧一致についての上昇は見られなかった。なお、2007年度については指導を行った⑤過去形と⑥受動態は上昇していた。したがって、両年度を比較して言えることは、指導した項目には明白に教育効果が見られるということである。

### 5.1.7 TOEIC形式の応用問題

TOEIC形式の応用文法問題は、旧版のTOEICのPart Vに出題されていた4肢選択問題であり、公開されている練習問題に準じた問題を7問出題した。出題した問題の一例をあげると、例えば、A husband and wife must respect each other in order to have a good ( ) .

Table 6 Comparisons of the Pre-and Post-test Scores on Structure of Verb Phrases

動詞句関連項目	2008 DDL (22名)			参考 2007 DDL (21名)		
	プリテスト (点)	ポスト テスト (点)	得点上昇 (点)	プリテスト (点)	ポスト テスト (点)	得点上昇 (点)
①動名詞&to不定詞	45	58	13**	64	84	20**
②that節&wh節	58	73	16**	63	78	15**
③形容詞	41	71	30**	—	—	—
④副詞	58	85	27**	43	73	30**
⑤過去形	84	79	-5	70	81	11**
⑥受動態	84	91	7	62	75	13*
⑦完了形	73	68	-5	—	—	—
⑧一致	69	66	-3	—	—	—

\*\*p<.01 \*p<.05

という文の ( ) に入る適切な語を {marry, marrying, marriage, married} の中から選ぶというものである。この問題に正解するには、a good ( ) が名詞句構造であり ( ) には名詞が来ること、選択肢の中で名詞は marriage であること、という2つの文法知識を活用する必要がある。このように TOEIC 形式の応用文法問題は、単独の文法知識だけで解答できる Table 5 の①から⑥までのテスト問題に比較して難易度は高い。

2008 年度の結果は指導前と指導後の得点間に有意な差があった。本実践では応用力を高めるために、DDL によって学習者の中に育った仮説について、明示的説明によって理解を深め、宿題として練習問題を課して、仮説検証による知識の内在化を進め、その答え合わせと解説によって知識の統合化をめざした。このような指導法の改善によって、基礎的な文法力の応用力向上に効果が得られたと考えられる。

### 5.2 3年間の経年変化に見る指導効果の検証

DDL 指導実践においては2006年度より通年の指導効果測定を行っている。そこで、2006年度、2007年度分と本年度実施した2008年度分の指導効果を経年比較した結果を Table 7 に示した。Table 7 の左列にはテストで扱われた項目①～⑦を示し、その右側に年度順に、2006年度、2007年度、2008年度の文法基礎力テストのプリテストとポストテストの得点(100点に換算)および得点上昇量を示した。各項目のテスト得点上昇は *t* 検定(対応ありの両側 *t* 検定)を用いて検定した。なお、これらの経年的な教育効果を比較観察する際には、1) テスト問題は毎年改善を加えているためほぼ同一のテストであるが問題数、内容とも完全に同じではないこと、2) 学習者は毎年異なることを考慮に入れる必要がある。

3ヵ年とも①品詞の区分、④派生、⑤名詞句について1%両側検定で指導の前後の得点上昇量に有意差が認め

られた。⑥動詞句については、指導を始めた2007年からは効果に有意差が検証された。また、⑦応用文法問題については2007年度には5%両側検定で、2008年度には1%両側検定で指導の前後の得点上昇量に有意差が認められた。一方、②可算・不可算と③屈折の得点上昇は2006年には有意な差であったが、2007年には③のみが有意で、2008年には両方とも有意な差は認められなかった。

以上の結果から、DDL 指導の焦点が3年の間に、比較的指導の容易な可算・不可算や屈折から、指導技術に経験を要する名詞句・動詞句の句構造に移っていったことが認められる。そのため、初歩的な可算・不可算や屈折の指導が手薄になった一方で、⑦応用文法問題の結果に見られるように基礎的な文法力の応用力向上には効果が得られるようになったと考えられる。2.3のシラバスデザインでは前期に主に語形変化の指導に重点を置く予定であった。今後はさらに高い指導効果を目指して初歩的な可算・不可算や屈折の指導も丁寧に行うようにしたい。

### 5.3 学習者の評価と感想

指導実践を行った DDL グループの学習者の英語に対する意識調査を4月に行ったところ、22名の学習者のうち59%は「英語は好き」と回答した。一方で「英語力に自信がある」という者は14%であった。このように英語は好きであるが、自信は持てないという学習者が、本稿で実施した実践授業に対してどのような評価を示したかを報告する。

#### 5.3.1 授業全般に対する評価

一年間の授業終了時に質問紙調査が行われ、学習者は質問項目に対して、「強くそう思う(5)」から「全くそう思わない(1)」の5段階で評価を行った。本節では、全般的な傾向を把握するため、授業全般に対する学習者の評価を、肯定的評価(評価5または4)、中立的評価(評価3)、否定的評価(評価2または1)に分類して Table 8 に示し

Table 7 Three-year Comparisons of the Pre-and Post-test Scores

テスト項目	2006 DDL (20名)			2007 DDL (21名)			2008 DDL (22名)		
	プリテスト (点)	ポストテスト (点)	得点上昇 (点)	プリテスト (点)	ポストテスト (点)	得点上昇 (点)	プリテスト (点)	ポストテスト (点)	得点上昇 (点)
①品詞の区分	65	80	15**	69	81	12**	73	92	20**
②可算・不可算	49	76	27**	66	74	8	67	69	3
③屈折	0	63	63**	60	75	15**	71	76	5
④派生	31	60	29**	33	53	20**	49	62	13**
⑤名詞句	28	58	30**	33	68	35**	54	71	17**
⑥動詞句	—	—	—	60	80	20**	64	76	11**
⑦ TOEIC 形式の文法問題	39	38	-1	39	51	12*	49	66	17**

\*\*p<.01 \*p<.05

**Table 8** Evaluation of the Course

質問項目	肯定	中立	否定
授業は楽しかった	77%	14%	9%
このクラスは英語の力がつく	73%	18%	9%
今後もこのようなクラスで学習を続けたい	68%	18%	14%

た。

コーパス利用学習と Web 語彙学習からなる本授業実践全般について、約 7 割前後の学習者が「授業は楽しかった」、「英語の力がつく」、「今後もこのようなクラスで学習したい」と回答しており、大多数の学習者が本授業実践に満足していると判断してよいと考える。具体的な意見を聞くため、「授業全般で効果的だったと思う点」について記述を求めた。一部を紹介すると、「良かった点は、中学高校ではなかなか説明されなかった文法事項の説明が多かったところ」、「単語、パラレルコーパス検索練習、宿題が繋がっているところ」、「テスト、宿題、ワークシートとか自立学習を促すところ」、「文法の基礎的な部分（品詞の区別や語順など）を学習することができたし、翌週までの宿題にその内容が含まれているので授業内容を定着することができる点」、という感想が寄せられた。このような感想には、本授業実践のシラバスデザインおよび「4 ステップ DDL 指導法」が効果的に機能している点が反映されていると考える。

### 5.3.2 コーパス利用学習に関する学習者の評価

**Table 9** には、コーパス利用学習について学習者に評価してもらった結果を、肯定的評価、中立的評価、否定的評価に分類して示した。DDL は「新鮮である」という項目に対して肯定的な評価を与えた学習者は全体の 74%、DDL は「集中できる」に対しては 68% であり、学習者が DDL に対して有益な授業イメージを持っていると判断してよいと考える。具体的な意見を聞くために、「DDL で私が好きなのは…」という記述を求めたところ、「各文法にスポットをあてて実際の英文で確認できる」、「自分で調べて学習する点」、「文法の実例を確認できること」、「検索ツールを用いて自分から積極的に学習できること」という感想が多く寄せられた。このことから、実際の英文例、そして自立的な発見学習は、学習者をひきつける魅力があることを確認することができた。

次に、パラレルコーパスを使った検索練習は「文法学習に役立つ」という項目に対して肯定的評価を与えた学習者は全体の 77% であり、「語彙学習に役立つ」という項目に対する肯定的評価は 73% であり、文法学習だけでなく語彙学習としての効果も認められていることがわかる。以上の結果から、DDL は初級学習者の文法・語彙指導の方法として有効であったと判断できよう。

**Table 9** Evaluation of the DDL Activity

質問項目	肯定	中立	否定	
① DDL 全般	新鮮である	74%	21%	5%
	集中できる	68%	26%	5%
	文法学習に役立つ	77%	14%	9%
	語彙学習に役立つ	73%	18%	9%
② 仮説形成ワークシート	役に立つ	53%	32%	16%
	文法学習に効果的	58%	26%	16%
③ 図式を用いた明示的説明	役に立つ	74%	26%	0%
	文法学習に効果的	84%	16%	0%
④ 仮説検証プリント	役に立つ	84%	16%	0%
	文法学習に効果的	79%	21%	0%
⑤ 仮説検証プリントの解答・解説	役に立つ	84%	16%	0%

以下、本実践の各指導段階で使用した指導教材・指導法に対する学習者の評価について述べる。

### 5.3.3 仮説形成ワークシートに対する評価

仮説形成ワークシートは DDL タスクを記載したもので、コーパスを利用した帰納的な学習教材である。仮説形成ワークシートに対して「役に立つ」という肯定的評価を与えた学習者は全体の 53% であった。「文法学習に効果的」という項目に対しては 58% の肯定的評価を得た。したがって、学習者が仮説形成ワークシートは有用であると考えていると判断してよいであろう。

### 5.3.4 句構造の図式に対する評価

DDL タスク終了後に、教師が板書を用いて当該の句構造について 5 分間の解説を行った。学習者の中には解説を聞いて、ワークシートに重要点をメモしている者も多い。このような説明の際に使用した句構造の図式に対して「役に立つ」という肯定的評価を与えた学習者は 74% であった。「文法学習に効果的」という項目に対する肯定的評価は学習者の 84% であった。このことから、図式を用いた明示的な指導は学習者の文法理解のプロセスに役立ったことが確認できた。

### 5.3.5 仮説検証プリントに対する評価

毎週、英語母語話者が作成した仮説検証プリント（宿題プリントあるいは follow-up と呼ばれる）を翌週までの課題とした。仮説検証プリントは「役に立つ」という質問項目に対して肯定的な評価を与えた学習者は 84%



であり、仮説検証プリントが支持されていることがわかる。「文法学習に効果的」であったという肯定的評価は79%であった。自由記述に表れた回答には、「わりと簡単に前回の復習ができる」、「いろいろな形式の問題が解ける」、「一人一人、まちがいに気付くことができる」、「他の文がでてきても応用を効かせることができる」、「授業の復習がこれ1枚でできる」という肯定的なフィードバックが得られた。

「仮説検証プリントに使った時間」をたずねた結果は、平均22.9分であった。「仮説検証プリントの課題数」については、5段階評価(5:多い, 1:少ない)で「3.1」であり、適切な分量であったことが判明した。自由記述には、「宿題は多いというわけではなかったので気楽に勉強できた」という感想が見られ、学習者に過度の負担にならなかったことがわかる。授業で学習した内容を英文の中で実際に使ってみる活動が、学習者の実態に合った形で行われ、仮説検証プリントが学習事項の理解と定着に役立っていたことが確認できた。

### 5.3.6 仮説検証プリントの解答と解説に対する評価

仮説検証プリントの解答は、翌週、授業の始まる前の休み時間に、学習者全員が割り振られた問題の解答をホワイトボードに書いておき、教師が解説をしながら答え合わせをするという手順をとった。この活動に対して肯定的評価を与えた学習者は84%であった。宿題の解答をクラス全員で共有できたこと、自分の解答を教師の説明を聞きながら確認できたことは正確な産出に向けて有効であったと考える。また、コンピュータルームにおける授業では、学習者と教師間のコミュニケーションが不足する傾向があるため、この方式は教師側にとっても満足度が高かった。

## 6. 今後の課題

本稿においては、DDLを活用して、第二言語習得研究で提示されている認知プロセスを導き出すために、これまでに開発してきたシラバス、コースウェア、プリント教材に改良を加え、それらを有機的に組み合わせた指導実践の結果を報告した。コーパスを英語学習に利用する試みは英語教育およびコーパス言語学の分野において新規的であり、DDL学習の指導実践の報告はほとんど見られないという現状のなか、筆者らが2004年に開始したDDL実践は年を追って充実したものとなっている。その結果、本研究においては、大学の一般英語クラスで初級学習者を対象として、文構造理解の基礎となる品詞の区別、名詞句構造および動詞句構造に関する理解を深め、教育効果をあげることができた。

しかしながら、さらに高い指導効果を目指すためには、理解した基礎的な文法項目を実際に使う production (産

出) 活動の機会をさらに多く取り入れる必要がある。Speaking や writing によるこうした活動は今年度の指導では授業時間の制約があって部分的にしか実現できなかったものである。現在はDDL活動の一部を自学自習で行うことで、限られた授業時間を有効に使うことによって産出活動の時間を確保したいと考え、家庭でパラレルコーパスを利用したDDL学習を実施できる検索サイトを開発中である<sup>25)</sup>。自学自習DDLの導入によって産み出された授業内の時間を有効に活用すれば、仮説検証のステップをさらに充実させ、対話や作文という産出活動を行う時間も確保できるであろう。今後は、実際場面で使える英語力の育成を目指し、シラバスならびに教材にさらなる改良を加え、「わかる」ことを「使える」ことへと結実させるようなDDL指導へと発展させていきたいと考える。

謝辞：本研究は平成19～20年度科学研究費補助金基盤研究C(課題番号19520515)を受けて行われました。

## 参考文献

- 1) 内山将夫, 井佐原均, 「日英新聞の記事および文を対応付けるための高信頼性尺度」, 『自然言語処理』, 10(4), 2003, 201-220.
- 2) Barlow, M., ParaConc (A Concordancer for Parallel Texts), 2004.
- 3) 中條清美, 西垣知佳子, 内山将夫, 原田康也, 山崎淳史, 「日英パラレルコーパスを活用した英語語彙指導の試み」, 『日本大学生産工学部研究報告B(文系)』, 38, 2005, 17-37.
- 4) 中條清美, 西垣知佳子, 内山将夫, 山崎淳史, 「初級英語学習者を対象としたコーパス利用学習の試み」, 『日本大学生産工学部研究報告B(文系)』, 39, 2006, 29-50.
- 5) 中條清美, 西垣知佳子, 内堀朝子, 「パラレルコーパスを利用した文法発見学習の試み」, 『日本大学生産工学部研究報告B(文系)』, 40, 2007, 33-46.
- 6) 中條清美, 西垣知佳子, 内堀朝子, キャサリン・オヒガン, 「データ駆動型学習による効果的な英語初級者向け文法指導の試み」, 『日本大学生産工学部研究報告B(文系)』, 41, 2008, 15-33.
- 7) 中條清美, 「コーパスに基づいたシラバスデザインとその実践」, 中村純作, 堀田秀吾(編), 『コーパスと英語教育の接点』, 東京, 松柏社, 2008, 67-90.
- 8) 中條清美, 西垣知佳子, 内山将夫, 山崎淳史(2006), 前掲論文.
- 9) Kennedy, C. and Miceli, T., Corpus-assisted Creative Writing: Adding a Monolingual Corpus



- to an Intermediate Language Learners' Reference Resource Toolkit, WorldCALL 2008, Fukuoka, August 6, 2008, 58.
- 10) 中條清美, 西垣知佳子, 内山将夫, 山崎淳史(2006), 前掲論文.
  - 11) 中條清美, 西垣知佳子, 内堀朝子(2007), 前掲論文.
  - 12) Moran, K. and Diniz, L., Teaching with Concordances, *On CALL Newsletter*, 22 (2), 2005. [http://www.tesol.org//s\\_tesol/article.asp?vid=192&DID=3503&sid=1&cid=768&iid=3491&nid=3303](http://www.tesol.org//s_tesol/article.asp?vid=192&DID=3503&sid=1&cid=768&iid=3491&nid=3303)
  - 13) Uchibori A., Chujo, K. and Hasegawa, S., Toward Better Grammar Instruction: Bridging the Gap between High School Textbooks and TOEIC, *The Asian EFL Journal*, 8 (2), 2006, 228-253.
  - 14) 中條清美, 「英語初級者向け『TOEIC 語彙1, 2』の選定とその効果」, 『日本大学生産工学部研究報告 B (文系)』, 36, 2003, 1-16.
  - 15) Hunston, S., *Corpora in Applied Linguistics*, Cambridge University Press, 2002.
  - 16) 投野由紀夫, 「教材とコーパス」, 中村純作, 堀田秀吾(編), 『コーパスと英語教育の接点』, 東京, 松柏社, 2008, 3-19.
  - 17) 中條清美, 西垣知佳子, 内山将夫, 山崎淳史(2006), 前掲論文.
  - 18) 中條清美, 西垣知佳子, 宮崎海理, ダイアン・ラム, 「Web TOEIC Vocabulary の開発とその評価」, 『日本大学生産工学部研究報告 B(文系)』, 42, 2009(予定).
  - 19) Pienemann, M. *Language Processing and Second Language Development: Processability Theory*. Amsterdam, John Benjamins, 1998.
  - 20) Corder, S.P. (1973), Pedagogic Grammars, in W.E. Rutherford and M.S. Smith (eds.), *Grammar and Second Language Teaching*, New York, Newbury House, 1988.
  - 21) Moran, K. and Diniz, L. (2005), 前掲論文.
  - 22) 中條清美, アンтони・ローレンス, 西垣知佳子, 内堀朝子, 「日英パラレルコーパスを利用した文法学習」, 『第47回大学英語教育学会全国大会要綱』, 2008, 105-106.
  - 23) Uchibori A., Chujo, K. and Hasegawa, S. (2006), 前掲論文.
  - 24) Biber, D., Johansson, S., Leech, G., Conrad, S., and Finegan, S. *Longman Grammar of Spoken and Written English*, Edinburgh Gate, Pearson Education Limited, 1999.
  - 25) 中條清美, アンтони・ローレンス, 西垣知佳子, 内堀朝子 (2008), 前掲論文.

(H 21. 2 .10 受理)

